

「寒暖差疲労」、「ヒートショック」 冬の住まいにおいて注意が必要

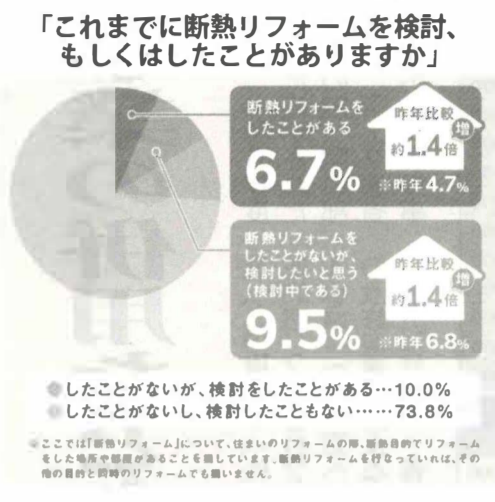
「冬(主に11月〜2月)における住まいの中での寒暖差と住宅の断熱に関する意識調査」を実施し、その結果を12月13日に発表した。調査対象は全国の20〜50代の既婚男女4700人(各都道府県100人)、調査期間が2023年10月となっている。

まず「冬、普段生活しているご自宅の中で過ごしている際に、場所や時間によって寒暖差を感じる」と回答したところ、74.1%の人が「感じる」、「どちらか」と感じる」と回答。ほとんどの人が同じ家の中で過ごしているにもかかわらず、場所や時間によって寒暖差を感じていることがわかった。

加えて、寒暖差を感じる人のうち「寒暖差を感じる瞬間」(複数回答)で最も多かった回答は、「朝、起床し布団から出る時の69.5%」だった。次に多かった「脱衣所で服を脱ぐ時」は48.0%で、21.5ポイント高い。

「寒暖差疲労」は、寒暖差による体温調節により多くのエネルギーを使用することで、体に疲労が蓄積し、疲労感やめまいといった症状を引き起こすことを指す。一般的に、1日の温度差が7℃あるときに起こりやすいと言われている。日常生活においてなるべく寒暖差を少なくすることが大切だ。さらに、暖められた場所から冷えた場所に出ると、体が急激に冷やされることで「ヒートショック」を引き起こす危険もある。そのため、同社は「住まいの断熱性能」を上げ、各部屋の気温差をなるべく無くし、住まいの中で寒暖差を少なくすることが快適な暮らしにとって重要と言えらる」とした。

また、「これまで断熱リフォームを検討、もしくはしたことがありますか」という質問に対し、調査結果は47.7%から、2ポイントの上昇がみられた。加えて、「断熱リフォームをした」と回答した人も9.5%と昨年度から2.7ポイント上昇し、断熱性能を見直している人が増えていることがわかった。



建設業に就職して「良かった」 具体的な理由とは

日本トレンドリサーチは、建設・不動産・医師専門人材紹介の株式会社RSGと共同で「建設業で働いて良かったことに関するアンケート」を実施し、その結果を11月20日に発表した。調査対象は事前調査で「建設業で働いたことがあり」と回答した全国の男女で、有効回答数が2777人。調査期間が2023年11月9〜13日となっている。

まず「建設業に就職して良かった」と思った理由を「良かった」と質問。64.3%と半数以上の人が建設業に就職して「良かった」と回答した。

「家を建てている経過を見る事ができた」(50代・女性)などが挙げられた。また、「給料や福利厚生が良かった」と回答した人では、「営業成績による報奨金として海外旅行ができたこと」(50代・男性)、「女性が優先的に休むことができ、給料が良く休みも土日祝日で安定していた」(50代・女性)、「勤めた時の手当てが大手企業の給料よりも約1.5倍くらいあった」(70代・男性)などが挙げられた。

「資格が取れた」と回答した人では、「資格手当がでた」(30代・女性)、「建設業はすそ野が広くて色々な商売の勉強ができた」(60代・男性)などが挙げられた。

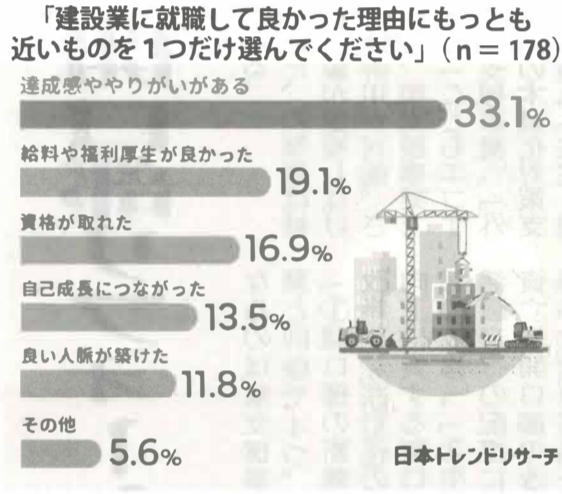
「達成感ややりがいがある」(30代・女性)、「お客様に喜んでくれたときの達成感にやりがいを感じる」(30代・女性)、「資格が取れた」(70代・男性)などが挙げられた。

「100年後のありがとうを目指し、人と地球と家計にやさしい家」を設計・建築する平松建築株式は、「後悔した住宅設備」について調査を実施し、その結果を11月21日に発表した。調査対象は自身または配偶者が建てた築3年以上30年未満の注文住宅に居住中の30歳以上55歳未満の男女全国1713人、調査期間が2023年11月13〜14日となっている。

まず「自宅の住宅設備について後悔しているか」と尋ねたところ、「ある」(48.3%)、「ない」(51.7%)で約半数の人が後悔していることがわかった。次に「自宅の住宅設備に後悔している」と回答した828人に「それは何か」と質問。最も多かったのは「ベランダ」(29.5%)、次に「性能の低い窓」(20.9%)、「浴室の壁紙」(19.0%)、「キッチン」(15.3%)、「複合フローリング」(13.9%)、「天井」(9.8%)、「多機能エアコン」(8.1%)、「ダクト式全館空調システム」(7.4%)、「ホームシアター」(6.2%)、「その他」(5.4%)となっていた。

「浴室の窓」(19.0%)、「窓」(15.3%)、「キッチン」(13.9%)、「複合フローリング」(13.9%)、「天井」(9.8%)、「多機能エアコン」(8.1%)、「ダクト式全館空調システム」(7.4%)、「ホームシアター」(6.2%)、「その他」(5.4%)となっていた。

同社は「お施主様がすべての設備を選んでいるのではなく、施工主からの提案で選んでいる人が多く、また長期的な視点で提案ができていない施工主も多い。つまり、人生を豊かにするための家づくりをするために、その設備は必要なのかどうかという判断の軸がブレてしまっている」とした。



約半数が住宅設備に後悔 長期的な視点で提案ができていない

「後悔した住宅設備は何ですか」(複数回答) (n=828) ※平松建築(調べ)

| | |
|--------------|-------|
| ベランダ | 29.5% |
| 性能の低い窓 | 20.9% |
| 浴室の壁紙 | 19.0% |
| キッチン | 15.3% |
| 複合フローリング | 13.9% |
| 天井 | 9.8% |
| 多機能エアコン | 8.1% |
| ダクト式全館空調システム | 7.4% |
| ホームシアター | 6.2% |
| その他 | 5.4% |

「浴室の窓」(19.0%)、「窓」(15.3%)、「キッチン」(13.9%)、「複合フローリング」(13.9%)、「天井」(9.8%)、「多機能エアコン」(8.1%)、「ダクト式全館空調システム」(7.4%)、「ホームシアター」(6.2%)、「その他」(5.4%)となっていた。

同社は「お施主様がすべての設備を選んでいるのではなく、施工主からの提案で選んでいる人が多く、また長期的な視点で提案ができていない施工主も多い。つまり、人生を豊かにするための家づくりをするために、その設備は必要なのかどうかという判断の軸がブレてしまっている」とした。

を11月21日に発表。調査対象は自身または配偶者が建てた築3年以上30年未満の注文住宅に居住中の30歳以上55歳未満の男女全国1713人、調査期間が2023年11月13〜14日となっている。

まず「自宅の住宅設備について後悔しているか」と尋ねたところ、「ある」(48.3%)、「ない」(51.7%)で約半数の人が後悔していることがわかった。次に「自宅の住宅設備に後悔している」と回答した828人に「それは何か」と質問。最も多かったのは「ベランダ」(29.5%)、次に「性能の低い窓」(20.9%)、「浴室の壁紙」(19.0%)、「キッチン」(15.3%)、「複合フローリング」(13.9%)、「天井」(9.8%)、「多機能エアコン」(8.1%)、「ダクト式全館空調システム」(7.4%)、「ホームシアター」(6.2%)、「その他」(5.4%)となっていた。

同社は「お施主様がすべての設備を選んでいるのではなく、施工主からの提案で選んでいる人が多く、また長期的な視点で提案ができていない施工主も多い。つまり、人生を豊かにするための家づくりをするために、その設備は必要なのかどうかという判断の軸がブレてしまっている」とした。

KEYTEC™

明けておめでとうございます
本年もよろしくお願い致します

PortPlus 大規模建築研究所

ポリエステル健康断熱材 ZEH対応

パーフェクトバリア

建築物省エネ法対応

LCCM住宅(ライフサイクルカーボンマイナス住宅)実現のために
*LCCM住宅とは:建設から廃棄までの、一生のCO2収支をマイナスにする住宅

1棟の住宅で、ペットボトル約20,000本を使用(約450kg)、約280kgの炭素を固定化します。(35年生の杉4本分)
約1トンのCO2の削減効果になります。

PET樹脂の主な特徴
PET樹脂は、炭素、酸素、水素から構成されています。約1/3が空気を原料とする炭素で占められており、他のプラスチックに比べて石油依存度が低い樹脂といえます。
PET樹脂は、炭素分を多く含むことから、燃焼時の発熱量が低く同水準であり、例えばポリスチレン(PS)の約半分となっています。

PET樹脂は炭素のかたまり
炭素:約63%
水素:約4%
酸素:約33%

パーフェクトバリアの製造プロセス
PET樹脂は炭素のかたまり
PET樹脂をリサイクルして製造しています。

お問い合わせは:パーフェクトバリアセンター
〒530-0054 大阪府北区南藤町2-2-9南藤町八千代ビル5F
TEL: 06(6363)1261 FAX: 06(6363)1262
https://www.endeavorhouse.co.jp エンデバーハウス